



おち あい ま ごめ 落合宿～馬籠宿

約
4.9
km

歩き旅

中山道ぎふ17宿とは？

江戸時代に整備された五街道の一つである中山道は、江戸と京都を結ぶ重要な街道で、全長135里32丁(約534km)に69の宿場が置かれました。そのうちの17宿、126.5kmが岐阜県的美濃地方を東西に横断しており、今も往時の面影を色濃く残しています。その土地の歴史や文化、隠れた魅力の発見を楽しむ街道観光は岐阜県の誇るべき観光資源であるとして、平成25年2月に「岐阜の宝もの」に認定されました。

Topics

木曾路の入り口となる「十曲峠」

落合宿と馬籠宿を結ぶ中山道の峠です。島崎藤村の小説『夜明け前』の文中には、「中山薬師から十曲峠にかけて、新茶屋に出ると、そこはもう隣の国だ。雪まじりに土のあらわれた街道は次第に白く変わっていた。鋭い角度を見せた路傍の大石も雪にぬれていて、まず木曾路の入り口の感じを二人に与える。」(第二部 第十一章 一より)と、西から見た十曲峠の様子が書かれています。

落合宿本陣

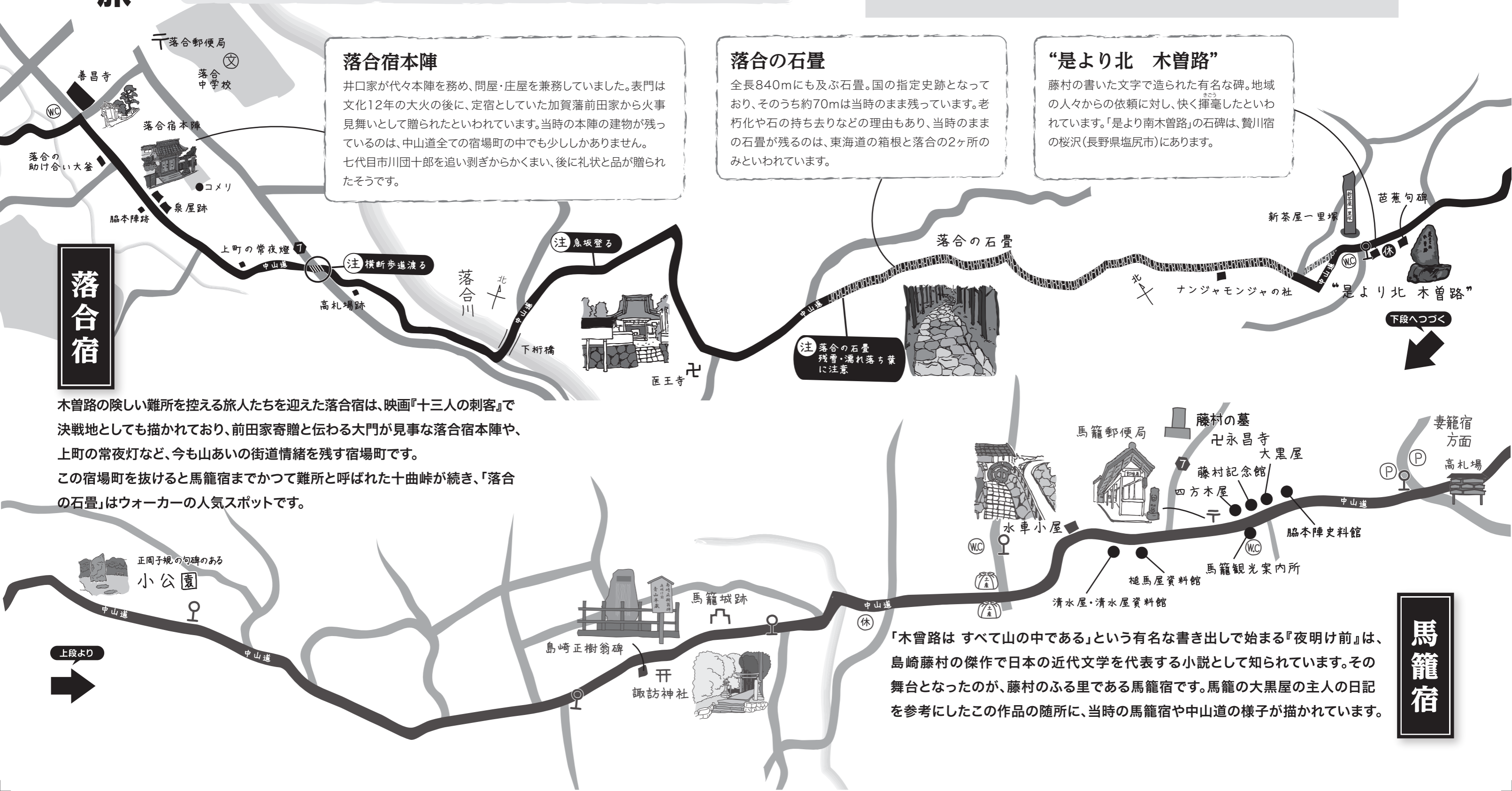
井口家が代々本陣を務め、問屋・庄屋を兼務していました。表門は文化12年の大火の後に、定宿としていた加賀藩前田家から火事見舞いとして贈られたといわれています。当時の本陣の建物が残っているのは、中山道全ての宿場町の中でも少ししかありません。七代目市川團十郎を追い剥ぎからかくまい、後に礼状と品が贈られたそうです。

落合の石畳

全長840mにも及ぶ石畳。国の指定史跡となっており、そのうち約70mは当時のまま残っています。老朽化や石の持ち去りなどの理由もあり、当時のままの石畳が残るのは、東海道の箱根と落合の2ヶ所のみといわれています。

“是より北 木曾路”

藤村の書いた文字で造られた有名な碑。地域の人々からの依頼に対し、快く揮毫したといわれています。「是より南木曾路」の石碑は、賛川宿の桜沢(長野県塩尻市)にあります。



落合宿

木曾路の険しい難所を控える旅人たちを迎えた落合宿は、映画『十三人の刺客』で決戦地としても描かれており、前田家寄贈と伝わる大門が見事な落合宿本陣や、上町の常夜灯など、今も山あいの街道情緒を残す宿場町です。
この宿場町を抜けると馬籠宿までかつて難所と呼ばれた十曲峠が続き、「落合の石畳」はウォーカーの人気スポットです。

馬籠宿

「木曾路は すべて山の中である」という有名な書き出しで始まる『夜明け前』は、島崎藤村の傑作で日本の近代文学を代表する小説として知られています。その舞台となったのが、藤村のふる里である馬籠宿です。馬籠の大黒屋の主人の日記を参考にしたこの作品の随所に、当時の馬籠宿や中山道の様子が描かれています。